



よしだ みわ

◆診療科紹介 ブレストクリニック 吉田 美和

2014年3月に昭和大学病院プレストセンターから、新たに昭和大学江東豊洲病院プレストクリニックを創設しました。常勤医師4名（江東豊洲病院所属3名、旗の台病院所属1名）と非常勤医師1名の計5名の経験を積んだ乳腺専門医が集結し、乳腺診療に関わる各専門分野の多職種メンバーと緊密に連携したチームで診療を行っています。プレストクリニックを創設して以来、徐々に体制も整ってまいり、1年経過した現在では、月平均8～10件の手術と、月平均外来延患者数200～250人の診療を行っています。

当院には、乳腺外科医、形成外科医、腫瘍内科医、病理医、放射線診断医、放射線治療医、看護師、薬剤師、検査技師という乳腺診療に関わる各専門分野の多職種メンバーが揃っており、乳がんの診断および治療（手術・薬物療法・放射線療法）にチームで取り組んでいます。チームのモットーとして、土日診療のメリットを生かし、患者さんの生活スタイルやご希望にも配慮した迅速な検査スケジュールおよび最適な治療を提供し、患者さんの不安をなるべく早く取り除くことができるよう心がけています。



1列目右から一人目吉田講師

第15号のトピックス

- 診療科紹介
—ブレストクリニック—
- 地域連携講演会
- 部門紹介
—臨床病理検査室—

ブレストクリニックの診療内容

当院のブレストクリニックの特色として、乳腺の画像診断には特に重きを置いており、最新の機能を搭載したマンモグラフィ（左：トモシンセシス搭載マンモグラフィ）や超音波機器（右：V-navi機能搭載超音波）を駆使して、乳腺の詳細な画像評価を行っています。さらには、大学病院の附属施設として、今後の乳腺診療の発展に貢献すべく、多くの患者さんのご協力のもとに画像融合機能搭載超音波ナビゲーションの臨床応用をテーマにした研究（文部科学省 基盤研究(C)）にも取り組んでいます。



乳がんの外科的治療においては、根治性のみならず高い整容性を追求した乳房温存手術に力を入れており、また、形成外科医の協力のもとで乳房再建手術も行っています。

ブレストクリニックでは、乳がん症例のみならず、診断やマネージメントの難しい乳腺疾患全般を取り扱っています。当院の女性外来には、産婦人科が併設していますので、妊娠期・授乳期にみられる乳腺炎や良性乳腺腫瘍はもちろん、妊娠期・授乳期乳がんという特殊な症例においても関連各科・多職種メンバーとの連携のもとに対応が可能です。

ブレストクリニックにおける診療の流れ

初診外来では、乳腺専門医が丁寧かつ迅速に対応致します。初診から針生検で診断確定に至るまでの所要期間は平均1～2週間、乳がんと診断された患者さんでは診断確定から手術（あるいは薬物療法開始）までの所要期間は平均1～2週間です。

乳がんの手術を受けられる方の平均入院期間は乳房温存手術を行った場合で3～4日間、乳房切除術を行った場合で5～7日間です。乳がんの薬物療法（内分泌療法・化学療法・分子標的療法）や放射線療法は、基本的には、患者さんに日常生活を送ってもらいながら、外来通院で行っています。乳がんの手術や化学療法が終了し、ご病状が安定された方で、近所の病院への通院を希望される場合には、連携が可能な医療機関をご紹介します。

The image is a promotional poster for a breast cancer symposium. It features three speakers: a woman on the left, a man in the center, and a man on the right. The text includes the event title 'BCネットワーク10周年記念イベント 乳がんシンポジウム@東京豊洲', the date '2015年7/19 13:00-16:00', and the location '昭和大学江東豊洲病院'. It also lists several speakers and topics, such as '乳がんと告知されても大丈夫' and '明日を拓く乳がんのチーム医療'. The poster is colorful and includes a logo for BCnetwork.

地域の乳がん治療を担うセンター病院としての取り組み

地域の乳がん治療を担うセンター病院として、乳腺診療に携わる当院のスタッフと近隣の連携施設のスタッフとの交流および地域全体の乳腺診療の発展をはかることを目的として、2015年5月15日に、当院の講堂で『第1回豊洲乳腺症例検討会』を開催しました。会の前半は、近隣の連携施設よりご紹介いただいた乳がん手術症例の画像診断、最終病理診断の情報共有およびディスカッション、後半は聖路加国際病院放射線科兼昭和大学放射線科客員教授の角田博子先生の講演で、当日は、医師、看護師、技師と多岐にわたるメンバー約40人が参加し、参加者から大変ご好評いただきました。今後もこういった企画を通じて、地域の連携を強化してまいりたいと思っています。



豊洲乳腺症例検討会 演者榎戸助教

地域連携講演会

6月20日（土）に、「昭和大学江東豊洲病院・豊洲クリニック地域連携講演会」を講堂で開催いたしました。江東豊洲病院としては初の開催であり、近隣の医療機関の方や院内職員を合わせて、100名超の方が参加されました。

心臓血管外科の山口教授、糖尿病・代謝・内分泌内科の李助教両名によるご講演をいただき、懇親会では医師同士が交流を深めました。



おおの かずお

◆部門紹介 臨床病理検査室 大野 一夫

江東豊洲病院臨床病理検査室は総勢34名の臨床検査技師で検査業務を行っています。

輸血製剤管理・病理検査・生理機能検査・採血は本学技師18名が対応し、検体検査は院内検査室と登録衛生検査所（病院から200m）の2か所で委託技師16名が対応しています。

2階には採血室と生理機能検査室があります。採血室には自動受付が導入され（写真：上）、採取された血液や尿は、受付から60分以内（一部を除き）に結果報告されます。生理機能検査室では心電図・脳波・聴力・呼吸・超音波検査などを行っています。特に超音波検査は検査依頼が多く、医師と技師が協働で検査対応しています。

3階には輸血検査室と病理検査室（写真：下）があります。手術室数が多いことも江東豊洲病院の特徴で、手術時の輸血や病理検査に対して迅速に対応しています。

江東豊洲病院臨床病理検査室はチーム医療の一員として安心安全な検査を心がけ、日々努めてまいります。これからもよろしくお願いいたします。



おのだ あいこ

編集後記 斧田 愛子

梅雨に入りました。憂鬱な雨が続き、体調を崩しやすい時期になりますが、皆さん体調管理は大丈夫ですか？豊洲西小学校にプールとトレーニングの施設が出来たことをご存知ですか？

雨の日に室内で体を動かすのもよいのではないのでしょうか。ダイエットのきっかけにもなりますね。また、7月に入ると七夕です。今年も病院に笹が飾られます。私も久々に短冊に願い事を書こうと思います。



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38

TEL03-6204-6000（代表）

発行責任者：新井一成 編集責任者：長谷川真



Showa University Koto Toyosu Hospital